

# としょかんNEWS 第81号



2013年12月11日  
湘北短期大学図書館

## 冬休みの読書を応援するお楽しみ企画！！

冬季休暇中の特別貸出を下記のとおり実施いたします。

- ・ 期間 : 12月16日(月)~1月11日(土)
- ・ 冊数 : 10冊まで

ぜひご利用  
ください！



昨年に引き続き、特別貸出の開始に合わせて、みなさんの冬休みの読書を応援するお楽しみ企画を実施します！年末年始にゆっくり読書をしてみてはいかがでしょうか？

### ● 第一弾！福引きキャンペーン

お楽しみ企画第一弾として、「福引きキャンペーン」を実施します。冬休みの特別貸出で本を借りた方全員に福引きのチャンス！おしやれグッズ、図書館キャラクター「さるーち」グッズなどの賞品をご用意して、みなさんをお待ちしています。

抽選会場は、レファレンスカウンターです。賞品の数には限りがありますので、お早めにご参加ください。

- ・ 期間 : 12月16日(月)~12月21日(土)



### ● 第二弾！お年玉キャンペーン

お楽しみ企画第二弾として、「お年玉キャンペーン」を実施します。冬休み明けに「読書ノート」を提出した方全員に図書館オリジナル2014年の卓上カレンダーをプレゼント！季節の「さるーち」イラスト入り。このカレンダーがあれば、図書館の開館スケジュールも一目瞭然。まだ読書ノートをつけたことがない方も、しばらく読書ノートをつけていなかった方も、是非この機会に参加してみませんか？

- ・ 期間 : 1月6日(月)~1月11日(土)



「読書ノート」をつけていけば、自分が学生時代にどんな本を読んだか、その本から何を学んだか、どんなところに感動したか、振り返ることができます。また、レポートやゼミの参考文献リストとして活用しても便利！就職活動の際にエントリーシートや面接で自己PRするときにも役立ちます。ぜひチャレンジしてみてください。

「としょかん NEWS」なので、やはり読んでくれた人に本を手にとってほしい。「読みたくなる」と言ったら、「おいしい本」！料理本やグルメ本を眺めるのも悪くはないけれども、それよりも何よりも、食べ物がおいしそうに書かれている本が「おいしい本」。食べ物がおいしそうに書かれている本は、話も絶対おもしろい！

最近おいしおもしろかったのは、ベストセラーで「ランチのあっこちゃん」(柚木麻子)。スペシャルカレーにスムージー・・・ランチじゃなくて夜中に食べるポトフ・・・おいしそう～。話も「ビタミン本」と言われるだけあって、「元気が出る」感じ。「おいしい本」作家と言えば、今は、小川糸かな。「食堂かたつむり」が映画化されて代表作だけれども「あつあつを召し上がれ」なんてタイトルから期待できる。唯一無二のぶたばら飯、ほろほろと煮込まれたポトフ、きりたんぼ鍋・・・食べたいっ。「ジュージュー」は

ステーキ屋の店名がタイトル。がつつり肉を脇役に、よしもとばなな節の家族のお話。ステーキ屋なのだけれども、ハンバーグのイメージの方が強い。肉汁がじゅわ～。読んでるだけで、肉の焼けるにおいが～。スイーツは「和菓子のアンソロジー」(坂木司)。和菓子はまいち好きではない。食べるのは嫌いなのに読むのは好きだったりする・・・というのも「おいしい本」を読む醍醐味。「タルト・タタンの夢」「ヴァン・ショーをあなたに」(近藤史恵)はビストロのシェフが探偵役のミステリー。出てくる料理も謎解きもおいしい。そして、おいしい本を書く作家は大抵おいしいものを食べている。エッセイ「ペンギンと暮らす」(小川糸)を読むと、あのおいしい小説の出所に納得。

おいしい本は読んでも太らないので、安心して、たっぷり読んでね。本にかきたてられた食欲に負けなければ、ね。

第99回全国図書館大会に出席すべく、福岡市に出張してきました。この大会が来年は100回目となる歴史をかさねていることはスゴイと思いました。

記念講演は、日本文学者ロバート キャンベル氏(東京大学教授)による「過去と未来の自分に会えるかもしれない、究極の図書館」でした。氏は2011年3月11日の東日本大震災後の状況として、多くの被災者を受け入れた鳴子温泉を例にあげ、ライフラインが整うと、次に図書館が求められたことを話され、図書館がゆるやかなコミュニティの核となる可能性を訴えられました。標題は氏の言葉です。

私は「子どもと共に歩む図書館～0歳から小・中・高へと利用をつなげるために～」という分科会に出席し、「つながる図書館、つなげる図書館」、「有田川町における児童サービスと絵本による町づくり」、「他施設及びボランティアとの連携による児童サービス」、「子どもたちの笑顔のために～震災後の取り組みとこれから～」という四つの事例発表を聞きました。四つ目の事例は、仙台市に隣接する名取市図書館長によるもので、甚大な被害を受けた

経過、図書館の復旧として東海大学チャレンジセンターのどんぐりハウスで子ども図書室を建設し、さらにカナダの支援で大人向けの図書室を建設——まさに涙なしには聞けない復旧物語でした。ことに究極の状況に追い込まれた人間が、立ち直っていく過程における本の必要性、重要性を痛感させられました。

地方への出張の楽しみは、その土地の料理やお酒にもありますが、その地を語る本との出会いは、私にとってさらなる楽しみです。両者がかさなると無上の喜びということになります。今回は横山宏章氏の『長崎が出会った近代中国』(海鳥社、2006年)を購入しました。日清戦争が勃発する1894年(明治27)の八年前——すなわち1886年(明治19)に清国の北洋艦隊が長崎に寄港、上陸した水兵と日本の警察官が衝突したのです。北洋艦隊は日本への示威行動で入港したのですが、その後の日本はこの事件を利用しつつナショナリズムを煽り、やがて黄海海戦(1894.9.17)でその艦隊を屠るのでした。

～編集後記～ 先月号より図書館長による「館長閑話」、今月号より教職員による「リレーエッセイ」の連載を開始しました。リレーエッセイではオススメの本を紹介していただく予定です。ぜひ読書の参考にしてください。自分も書いてみようかなと思われた方には、読書ノートがオススメです！(担当 KT)